



TITLE:

変異研究部門(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

野沢, 謙; 和田, 一雄; 庄武, 孝義; 峰沢, 満

CITATION:

野沢, 謙 ...[et al]. 変異研究部門(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報 1980, 9: 18-19

ISSUE DATE:

1980-03-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162888>

RIGHT:

- 16) 森 梅代 (1979) : ニホンザルの子守り行動の発達と性差。昭和53年度科学研究費補助金 (一般研究B) 研究成果報告書, 27-32。

報告・その他

- 1) 川村俊蔵 (1978) : インドネシアとの学術協力についての第二次展望。学術月報, 31(8), 49-53。
- 2) 東 滋 (1978) : 動物のなわばりとマーキング。ワイルドライフ, 9, 46-51。
- 8) 鈴木 晃 (1979) : チンパンジー, 野生のいとなみ。ワイルドライフ, 9, 46-51。
- 4) 足沢貞成 (1977) : 下北のニホンザル — その現状と変遷 —, にほんざる, 3, 11-22。

報告・その他

- 1) アジア産ヤセザルの比較社会学的考察
川 村 俊 蔵
第32回日本人類学会 (1978)

- 2) Social life of *Presbytis melalophos* in Sumatra.
Syunzo Kawamura, VIIth Cong. Intern. Primat. Soc. (1979)

- 3) 木曾研究林予定地におけるニホンザル社会 (予報)

川 村 俊 蔵
第23回プリマテス研究会 (1979)

- 4) 照葉樹林と哺乳動物

東 滋
第26回日本生態学会, シンポジウム「照葉樹林」 (1978)

- 5) Habitat quality, Home range size and population features in Shimokita population of Japanese Monkeys.
Shigeru Azuma & Sadashige Ashizawa
Symposium "Distribution of Animal in Space" VIIth Congress of the International primatological Society, Bangalore, India. (1979)

- 6) Social Structure and Dynamics in Gelada Baboons (*Theropithecus gelada*)
Umeyo Mori
The Symposium, "Baboon Field Research: Myths and Models" at Seven Springs Center, Mt. Kisco, New York. (1978)

- 7) ゲラダヒヒの社会行動に関する行動生物学的分析

森 梅 代
第32回日本人類学会日本民族学会連合大会 (1978)

変異研究部門

野沢 謙・和田一雄
庄武孝義・峰沢 満

研究概要

- 1) ニホンザルの集団遺伝学的研究

野澤 謙・庄武孝義

ニホンザルの血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異を電気泳動法によって検索し, 群内・群間の変異性を定量化する。現在までにニホンザル約40群, 総個体数約2,000頭の血液試料について, 約30種の蛋白の構造を支配する計32遺伝子座の検索をおこなった。このデータをもとにして, 統計的検討を加え, 繁殖単位間の毎代の移出入率, 遺伝的変異の散布範囲などについて定量的推定をおこない, ニホンザルの繁殖構造を解明すべく作業を続行中である。

- 2) *Macaca* 属ザルの系統的相互関係

野澤 謙・庄武孝義

ニホンザルを含む *Macaca* 属ザル各種から採血をおこない, 上記1) と同一の方法によって種内・種間の遺伝的変異性を定量化し, それら種間の遺伝子構成上の差を遺伝距離で表現し, それに数量分類学的手法を適用して枝分れ図を描く。それにより種間の近縁関係, 分化時間の推定等をおこなう作業を目下続行中である。

- 3) ニホンザルの先天的四肢奇型への遺伝的アプローチ

野澤 謙・庄武孝義・峰沢 満
ニホンザルの数多くの餌付け群に多発する先天

的四肢奇型が遺伝的支配を受けているか否かを明らかにすべく研究が続行されている。集団の奇型出現の家族集積性のデータから統計遺伝学的手法を用いて遺伝率の推定を行なう他、細胞遺伝学的手法を用いて奇型出現と染色体異常との関連の有無を明らかにする作業を行なっている。さらに交配実験は、淡路島野猿公園の協力を得て現地で行っているほか、モンキーセンターとの共同研究として、宮島から入れた奇形ザルを用いて本研究所内においても続行している。

4) 家畜化現象と家畜系統史の研究

野澤 謙・庄武孝義

在来諸家畜とそれらの野生原種の遺伝学的野外調査によって、家畜化現象そのものの集団遺伝学的解明と、個々の家畜種内で地域集団間の遺伝的分化の程度、系統的相互関係の解明を行ないつつある。

5) ヒヒ類の種分化に関する遺伝学的研究

庄武孝義・野澤 謙

1975年度の調査に続いて、ゲラダヒヒを中心に、ア、ヌビスヒヒ、マントヒヒも含めて調査を行なっている。上記1)、2)と同じ手法を用いてヒヒ類の種分化の問題にアプローチしようとしている。

6) ニホンザルの細胞遺伝学的研究

峰 澤 満

ニホンザルから採血した血液を培養することにより染色体標本を作成し、これに各種の分染法を適用して、ニホンザルにおける染色体の変異性を明らかにしようとしている。

7) ネパールにおけるヒマラヤンラングール、アカゲザル、アッサムモンキーの生物地理学的研究

和田 一雄

1977年度に調査した結果を整理、考察した。

8) 志賀高原横湯川流域のニホンザルの生息環境調査及び志賀C群の遊動調査

和田 一雄

食物の生産量、分布密度等を推定するための基礎調査として、方形枠法及び seed trap による果実、枝等の収獲の定量的調査をした。そして同流域に生息するC群の遊動を主として冬に集中して観察した。

9) ゼニガタアザラシセンサス調査

和田 一雄

経年の個体数変動を明らかにするため、北海道太平洋岸の岩礁地帯5カ所で一斉調査を行なった。

論文

- 1) 野澤 謙・庄武孝義・川本 芳 (1978): ニホンザル集団における蛋白変異の保有機構。アイソザイム変異の動態、保有機構及び進化的意義、昭和51・52年度文部省科学研究費補助金総合研究(A) 研究成果報告書 pp 19-25。
- 2) 野澤 謙・加納康彦・沢崎 徹・西田隆雄・阿部恒夫・庄武孝義・松田洋一 (1978): 小型ヤギいわゆるシバヤギの遺伝子構成。実験動物, 27: 413-422。
- 3) 野澤 謙 (1979): ニホンザル四肢奇形の調査について。環境汚染による発生異常の検索法とその問題点。「環境科学」研究報告書 B 23-S 14-1 pp 28-30。
- 4) Wada, K., N. Ohtaishi, & N. Hachiya (1978): Determination of age in the Japanese monkey from growth layers in the dental cementum. *Primates*, 19(4), 775-784

報告・その他

- 1) 和田一雄 (1978): ネパールのアッサムモンキーをさぐる。モンキー, 159, 22-27。

学会発表

- 1) ニホンザルの集団構造について
野澤 謙・庄武孝義・川本 芳
第50回日本遺伝学会 (1978)
- 2) ネパールにおけるアカゲザルとアッサムモンキーの分布について
和田 一雄
第23回プリマーテス研究会 (1979)
- 3) ニホンザルの四肢奇形の形態的特徴に関する考察
和 秀雄・後藤俊二・峰澤 満
第23回プリマーテス研究会 (1979)